

市長記者会見記録

日時：2014年9月2日（火）午後2時～午後2時16分

場所：本庁舎2階 講堂

議題：市政一般

<内容>

（遺体保管所について）

司会： ただいまより、定例の市長記者会見を始めさせていただきます。

本日は市政一般となっております。

それでは、市長、幹事社さん、よろしくお願いいたします。

市長： こんにちは、よろしくお願いいたします。

幹事社： しつこく聞いて申しわけないのですが、昨日の話ではないです。例の中原の遺体の保管所が、明日オープンすることになったそうです。オープンしてしまうとどうしようもないというのも現状だと思うのですが、住民にはストレスで寝込んでしまっている方もいるという話を聞いたのです。今後、条例とかはまだ急にはできないと思いますが、今できることは何か行政として、こういったものがあると考えますか、市長。

市長： これまでどおり法律だとか条例だとかの位置づけがないものですから、なかなか行政としてできることには限界があると思っています。明日からオープンということですので、実際に運用されていく中で、住民の皆さんに不安やご心配をおかけすることがないようにといった配慮を求めていくのは引き続きぜひお願いしていきたいと思っています。

幹事社： 多分、このような施設はこれからもできてくると思うのですが、条例の制定は、どれぐらいのスピード感を持ってやりたいという思いなのですか。

市長： 2週間前の会見の中でようやく動き始めたということで、対象の範囲とか、どのような形でやっていくかを検討したところです。いずれにしてもスピード感を持ってやりたいと思っています。幅広く検討していきたいと思っています。

（特別秘書の設置条例案の取り下げについて）

幹事社： 何度もしつこいようですがけれども。

市長： いえいえ。

幹事社： 昨日の話です。

市長： 昨日の話ですか。

幹事社： 一晩、一日経ってたって改めて、昨日例えばご自宅に帰ってだとか、退庁してからでもいいのですけれども、このことについて改めて考えたことはありますか。考えたというか思いめぐらしたこととか。

市長： そうですね。何というのでしょうか。昨日で1回、一区切りですので、もう一回議会との信頼関係の中で丁寧に説明していこうと改めて決意したというか、改めて思っているところです。

幹事社： いわゆる悔しい気持ちというか、何というか、このやろうというか闘志を燃やす部分はあるのですか。

市長： いや、何というのですか何か戦って勝ち取る種のものではないので、それが市民の生活に直結して、戦わなければならないという話であれば闘志が出てくるのでしょうかけれども、そういう趣旨の話ではないので極めて冷静にこれからご説明していこうと思っています。

(市長動向について)

幹事社： 先週官邸に行かれて菅官房長官とお会いになられて、大田区長や県知事と一緒にお会いになっているみたいですが、どういったお話、何か少し動きが出てきているということなののでしょうか。

市長： 今後の連携についての意見交換という意味でございます。

幹事社： その中では具体的に例えば協議会だとか、そういったものの設置とかは見えてきているのでしょうか。

市長： 現時点ではこれはノーコメントという形で。

幹事社： 各社、どうぞ。

(平成26年度予算の執行抑制及び予算編成方針等について)

記者： 先だって、副市長3人の連名で今年度の予算方針について1%カット、来年度予算に関してもとにかく節約してくれないと赤字になりますと。かつ、向こう10年の収支見通しが示されて、少しびっくりするぐらいの赤字でした。一方で、この秋からは、いよいよ給食の施設だとか、まだ市長公約の中で実施していない小児医療費の無料化だとか、あるいは、もしかしたら菅さんと関係あるかもしれないのですけれども、羽田連絡道だとか、オリンピックに向けたインフラ整備だとか多額の費用が必

要になってくるものがあります。保育園もそうです。現在の市の財政と中長期における市の財政をどのようにご覧になっているかということと、それから、財源不足をどのようにして解消していかれるのか、今の段階での市長のお考えをお聞かせください。

市長： 行革に関する会議をこの前やったときに、厳しい財政状況について問題を幹部職員と共有しました。一番楽観的な数値であっても1,600億円を超えるということでもありますから、非常に厳しいという共通認識をまず持とうということでもあります。来年度に向けての予算編成、サマーレビューが終わったところですが、改めて今年度の執行抑制は、これまでにない危機的な状況をみんなで共有する必要があるということをも改めて共有したということでもあります。

ご質問のように、これからやらなければならないことがたくさんあるわけですし、そのためには、繰り返し私も言っているのですが、スクラップ・アンド・ビルドではなくて、スクラップ・スクラップ・アンド・ビルドぐらいにやらないと、とてもではないけれども市民のニーズにはお応えすることができない。量的な削減ということも、これからも必要になってくるわけですが、一方では量だけでは市民のニーズに応えることができないという意味では、質的な転換も同時に図っていかなくてはならないと思っております。まずはそこを徹底していきたいと思います。それは庁内でやっていかなければいけないことだと思います。

あるいは、市民の皆さんに行政サービスのコストが一体幾らかかっているのかをしっかりとお伝えしていくことが、むしろ納税者の皆さんに対する説明責任をしっかりと果たしていくという意味においても非常に必要なのではないかと思います。その点をしっかりとお示ししていきたいと思います。

財政状況の現況を市民の皆さんによくご理解いただくということは、問題を共有することから始めていかないと、いかなる量的削減も質的転換もしっかりと成就できないと思っておりますので、そこらあたりをしっかりとやっていきたく思います。

記者： 一方で、高齢化が進んで扶助費が高止まりしている状態で、これは増えることはあっても減ることはない状況だと思います。川崎市の財政を見ると、経常収支比率が高くて、現状のままでは黒字を生み出すような余地がなさそうな感じもするのです。となると、なかなかお答えいただきにくい質問かもしれないですが、例えば職員の給与の削減といったところまで手をつけないと、この先、市財政が成り立っていかないのではないかと。一方で、市民にもしかしたら負担をかけることになるかもしれないという状況にあっては、まず、市が率先して身を切る姿勢を示さないといけないのではないかと感じます。現段階で、人件費を中心とした固定費の部分を削

っていこうという考えはありますか。

市長： いずれにしても、行革の中で、全体的な中でしっかりと見直していくものは見直していくことはそうでしょうし、市民の皆さんにもご負担いただくためにも率先して色々なことはやっていかなければならないことはそうだと思います。例えば、人数の削減もこれまで相当なものをやってきて、これは議会も含めて市民の皆様もおそらく感じる部分もあるのではないかと思いますけれども、かなり絞って絞って乾いた雑巾になっている部分がやはりあるのではないかと、私も去年の選挙の段階から申し上げてきたところです。そこで、そういう意味での質的な転換を図っていかなければいけないと思っています。

それと、この前、政令指定都市市長会議のときにも申し上げたのですが、例えば、国民健康保険もどうやって抑制していくかというのをしていかなければいけないときに、努力して減らせば減らすほど交付税が減っていくという、努力した自治体が、ある意味すごく変な言い方ですけども損をするという仕組み自体を国に対してもしっかりと訴えていかなければいけないと思っています。ですから、そういった全体の大きな話としてもやっていかなければいけないことはまだまだ幾らでもあると思っています。

記者： すみません。少しくどいですがけれども、同じ政令市の中でも川崎市の職員の給与は比較的高い水準にあるとされています。今度、手数料の見直しも今回の9月議会で案件にかかっていたと思います。市民に厳しい財政状況を認識してもらうことはもちろん大切なのですが、まずは率先して市は何をやっているのかを示さないとなかなかご理解を得られにくいと思うのですが。

市長： まずは市民の皆さんに、当然あらゆる行革を通じてということをお願いしましたがけれども、もう一つ必要なのは、例えば市民の皆さんに保育料の話ですけども、規定されている75%しかご負担いただいていないという状況です。このことすら皆さんはご存じないということなのです。ですから、あらゆる行政サービスに対してどの程度公費が投入されているのか。これは翻ってみれば、私たち納税者の税金でやっているわけですので、誰かが払っているというよりも、むしろ私たち納税者が負担しているということにほかならないので、このところをまずしっかりとご理解いただいていくほうが、でっかい話をしっかりやっていかななくてはいけないのではないかと考えています。ですから、庁内的にやる話と対外的にもきちんとやっていく話という2つの柱を先ほど申し上げましたけれども、両方進めていかなければいけないと思っています。

記者： 具体的に納税者に厳しい市財政と、どれぐらいの負担を公費で賄っているのかということを知らせるための具体策のようなものはありますか。

市長： これから議会でも大いなる議論になると思いますけれども、どれだけ公費を入れるのが望ましいの、市民の皆さんにどれだけ負担をしていただくのか、マトリックスをつくってそれをやっていますので、そのことをしっかりとまず議会でご議論いただき、市民の皆さんにもわかりやすく説明していきたいと思っています。

記者： わかりました。

（人口推計について）

記者： 関連して、高齢化の話が出たので。先日、人口推計を公表していただきましたけれども、その中で驚いたというか、年少人口が来年をピークに減っていくと。2020年には超高齢社会に川崎もいよいよ突入するのだという内容でしたけれども、市長自身はこの推計をご覧になって、今のポイントについてどんな印象というか感想をお持ちですか。

市長： 国も自治体もそうですけれども、全ての問題は、この人口構成にあると思っています。全ての問題が起因していると思っております。これも政令市の中でも今は比較的若い都市ですけれども、高齢化の伸び率としては他都市を大きく上回って急速にこれから進んでいくということもしっかりと認識した上で市政運営をやっていかなくてはならない。そういった社会になったら、どういう市になるのかということをも市民の皆様にもよく知っていただく必要があると思っています。ですから今、市の総合計画を策定する段階で市民の検討委員会もやっております。やってきて7区、先週で終わりました。その中でこういった人口推計のお話をしますと、各区の特徴が出てまいります。一体私たちはこの10年後でどうなってしまうのかということをも市民の皆さん自らすごく感じておられる。このことへの理解をさらに大きくしていかないと、例えばこの地域交通の話にしても、あるいは地域包括の話にしても共有できないこととなりますので、まずこのあたりの数値、将来像を市民の皆さんと共有していきたいと思っています。

（内閣改造について）

記者： 全く違う話です。明日固まると言われています安倍改造内閣。新しい改造内閣に市長から期待するものは、どういうものがありますか。

市長： そうですね。今の内閣が掲げている成長戦略のようなものをさらに力強く進

めていただきたいと思っています。今度、地方創生担当大臣ができるのですが、そういう新しいポストには、個人的には大変期待をしております。

司会： 質疑のほうはよろしいですか。

幹事社： いいですか。

市長： よろしいです。

幹事社： 物足りないですね。

市長： いえいえ、十分でございます。どうもありがとうございます。

司会： それでは、以上をもちまして、終了させていただきます。ありがとうございました。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務局秘書部報道担当

電話番号：044(200)2355